

「人づくり」は「自分づくり」—VSOP を認識し自分づくりを

内山 充

薬剤師生涯学習は、目まぐるしく変化する環境と、日進月歩の科学技術に即応した「人づくり」を目標としている。生涯学習は、学ぶ者の視点を優先して考えるべきであり、嫌いで不得意な領域を補うことより、好きで得意な課題から取り掛かる方が効果的であるなど、多くの点で大学教育とは異なる取り組みが必要である。そして何よりも「人づくり」の基本は「自分づくり」であり、「誰かがしてくれる」のではなく「自己責任」が原則である。生涯を通じて、自ら進んで多くのことの習得に努めるのと同時に、常に「理念」を忘れないことと、「個性」を大切に作る心構えを持って頂きたい。

「理念」とは、自分の人間としての社会活動の目標を、はっきりと捉えた思考の形である。その理念は、常に外に向けて明らかにされていなければならない。良く知りもしない標語の受け売りや、美しい言葉の羅列ではなく、自分の考えが自分の言葉で語られ、何を意図しているか分かることが肝要である。理念の欠如した人（あるいは組織・団体でも同じだが）は、何を考えているのかが分からず、意思のはっきりしない、顔の見えない存在としかみなされない。

当認証機構の理念としては「薬剤師生涯学習制度の実施機関を育成・支援し、評価・認証することにより薬剤師の資質向上を図り、薬剤師が病院および地域医療の場において、専門職能を通じて人々の健康を守り、豊かな生活に貢献できて、社会全体の理解と共感を得られるようになって欲しい」と考えている。資質の向上が目標であって、資格や肩書や称号を得ることが目的ではない。

理念は、置かれた立場により様々な表現で良い。理念は自分で作るものである。いつでも理念を表現として示せることは、Originality（独自性）を持つ者の基本である。

「個性」は「人格」とも言えるが、日常行為を行う主体である。自分の中にあるものを抛りどころとしての行動が、「専門職業人の倫理」に則った行動であるときに、高い人格と評価される。

専門職業人の倫理とは、道徳とか人間愛とか個の尊重とかいうような、人としての基本的な倫理観を守りながら、日常遭遇するあらゆる場面において、最善の判断基準をもって、正しい評価に基づく最適な行動が取れることをいう。薬剤師であれば、決して利害や損得、好き嫌いや面子、空虚な権威などに流されることなく、最適な薬学的判断を下す評価能力と、それを行動に移すことのできる実行力を備えていることを意味する。そしてこの「人格」は、生涯学習によって得た豊かな知識・技術によって裏付けられるものであり、人間としていつかは身につけたいPersonality（人間としての魅力）ということができよう。

人間形成の道筋の比喻として使われる「VSOP」に沿って言えば、薬剤師も、若い時代の Vitality、仕事に慣れてきて次に目標とする Specialty に続いて、Originality（独自の理念）と Personality（魅力的な人格）を目指して学習を続ける必要がある。

今日の業務をそのまま明日も続けられればよい、という時代ではなくなってきた。知識社会に生きる者として、理念、人格、能力を伴って資質向上する責任がある。一人ひとりが、社会と人間のために役立つ「明日の自分」を目指して進んで欲しい。

(2011. 4. 20)